

## ナショナル グリッド ADR(NGG)

【セクター】 公益事業

【市場】 NYSE

## 【企業概要】

英国籍の公益事業の企業でロンドンおよびニューヨーク市場に上場。1990年に解体されたイングランドとウェールズをカバーする国営電力の送電事業を担当する会社として設立、2000年から2006年にかけて米国の電力・ガス企業、旧ブリティッシュガスの一部などを買収して、現在の事業が形成されました。イングランドおよびウェールズで送電網、英国全土でガス供給網を保有・運営するほか、米国北東部でも送電網を保有・運営。スコットランドでも送電網を運営しています（施設保有はイベルドロウ）。1ADRは普通株5株に相当します。

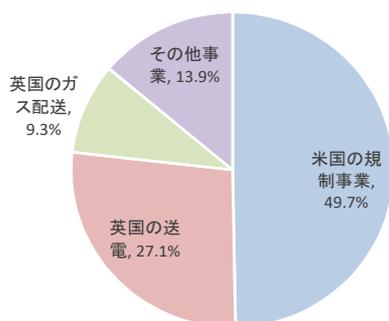
【業績】（単位：売上、純利益は百万ポンド、EPS、DPS、BPSはポンド、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
18年3月期	15,250	2,051	0.59	0.45	3.4	10.5	32.1
19年3月期	14,933	1,998	0.59	0.45	3.4	10.5	30.8
20年3月期予想	15,516	2,021	0.58	0.49	5.9	10.2	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

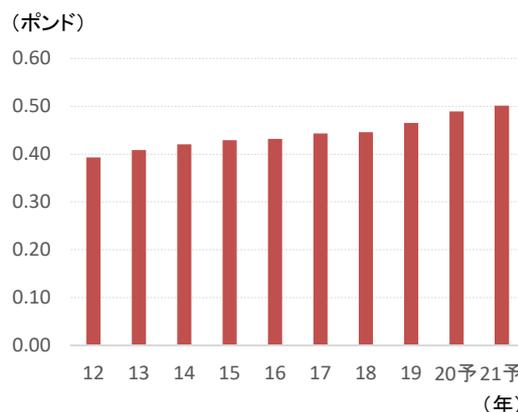
## 【主要指標】

図表1 事業別営業利益



(出所) BloombergデータよりSBI証券が作成

図表2 1株当たり配当金の履歴・予想



(出所) BloombergデータよりSBI証券が作成

## 【会社の見方】

年間50億ポンド（約66億ドル）に達する大規模な投資が続く予定で、資産規模は年率5～7%ペースで拡大すると見込まれます。これによって中期的な収益拡大と株主資本利益率の引き上げが期待されています。一方、混迷するブレグジット（英国のEUからの離脱）の行方、英国の野党・労働党が公益事業の再国営化計画を提案していること、また、英国の送電事業について規制当局が許容する株主資本利益率が2021年から低下する見込みであることなどが株価を抑える不透明要因となっています。

## 【見通し・注目点】

19年4-9月期の基調営業利益は13.0億ポンドで前年同期比1%増でした。主要部門の基調営業利益は、英国の電力が売上増で同5%増の5.8億ポンド、英国のガスが料率低下により同27%減の0.7億ポンド、米国の公益事業が新料金への移行が効いて同22%増の5.3億ポンドでした。20年3月期は、米国、英国の公益事業の収益は堅調が見込まれます。一方、その他事業では、前年度にあった一時利益の剥落が見込まれています。

(SBI証券 投資情報部 榮 聡)

(更新日 19/12/4)

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。